

CNGトラック

25t車の実走行開始

日本ガス協会 エコトラックに貸与

日本ガス協会は10月30日、圧縮天然ガス(CNG)車としては、最大規模の車両総重量25tのトラックを公開した。2年間の走行試験で基本性能が確認できたことから、都市間の商用運行による走行試験を行い、実用面でも十分な性能を発揮することを証明する。すべての配送車両でCNGトラックを使用する運送事業者のエコトラック(池田治子社長)が実走行に使用し、走行性や燃費の検証を行う。今回の走行試験を通じて、2、3年後の実用化を目指していく。

日本ガス協会は10月28日から3日間、東京ビッグサイトで開催した「2007東京トラックショー」(主催・日新出版)で25tトラックを展示し、CNG大型トラックが実用化に向けて、大きく前進したことをアピールした。

この大型CNGトラックは、日産ディーゼルの05〜06年度には、日産ディーゼル本社のある埼玉県上尾市から仙台商間を中心に公道走行試験を行い、改良を重ねた。1充

填で600km以上の走行が確認できたことから、

エコトラックに貸与し、実走行で運用を行い走行性や燃費などを確認してもらう。エコトラックの池田雅信取締役は「荷物を満載した状態でも3・9km/mlの燃費が出る」とが分かっている。まず近距離で試してから、本格的な運行を行う」と話

している。今回の展示会では、車両メーカーや関連機器メーカーが各社の取り組みを紹介した。加地テックは日本ガス協会のブース内に、バッテリーシステムの天然ガス充填装置を設置した。これは圧縮機、蓄ガス器、ディスプレイ

ンドで使用する充填設備を二通りパッケージ化したもの。従来型の設備に比べ、大幅に現地での工事を削減できる。内蔵の簡易ディスプレイを取り外し、既存のディスプレイを使用するなど、オプションも用意している。

ミニクレーン付きをブース内に並べて、豊富なラインアップを紹介した。日産ディーゼルは、超高压燃料噴射で低燃費化し、これに加え、尿素水を排気ガスに投入することで窒素酸化物(NOx)排出量を抑制する独自のシステムをビデオ映像で紹介。このシステムを搭載した車両「クオン」の実機を展示した。



トラックショーで公開された25t車